令和3年第1回大玉村議会定例会会議録

第4日 令和3年3月5日（金曜日）

1. 応招（出席）議員は次のとおりである。

1番 斎藤 信一	2番 渡邊 啓子	3番 菊地 厚徳
4番 本多 保夫	5番 松本 昇	6番 佐原 佐百合
7番 鈴木 康広	8番 武田 悦子	9番 佐原 吉太郎
10番 須藤 軍蔵	11番 押山 義則	12番 菊地 利勝

2. 不応招（欠席）議員は次のとおりである。

なし

3. 地方自治法第121条第1項の規定により説明のため出席を求めた職員。

村 長	押山 利一	副 村 長	武田 正男
教 育 長	佐藤 吉郎	総務部長 兼総務課長	押山 正弘
住民福祉部長	中沢 武志	産業建設部長 兼農業委員 事務局長	菅野 昭裕
教育部長 兼生涯学習課長	作田 純一	政策推進課長	館下 憲一
税務課長	菊地 健	健康福祉課長	後藤 隆
再生復興課長	伊藤 寿夫	産業課長	渡辺 雅彦
建設課長	杉原 仁	会計管理者 兼出納室長	中沢 みち子
教育総務課長	橋本 哲夫		

4. 本会議案件は次のとおりである。

一般質問

議案審議

質疑・討論・採決

議案第 1号 令和2年度大玉村一般会計補正予算の専決処分（1月）の承認を求めることについて

議案第 2号 令和2年度大玉村一般会計補正予算の専決処分（2月）の承認を求めることについて

議案第 3号 大玉村議会議員及び大玉村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定について

議案第 4号 大玉村社会教育指導員設置条例を廃止する条例について

議案第 5号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について

議案第 6号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

- 議案第 7号 大玉村税条例の一部を改正する条例について
- 議案第 8号 大玉村保育所条例の一部を改正する条例について
- 議案第 9号 大玉村ひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例について
- 議案第 10号 大玉村国民健康保険条例の一部を改正する条例について
- 議案第 11号 大玉村介護保険条例の一部を改正する条例について
- 議案第 12号 大玉村指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について
- 議案第 13号 大玉村指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について
- 議案第 14号 大玉村指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について
- 議案第 15号 大玉村指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について
- 議案第 16号 大玉村鳥獣被害対策実施隊設置条例の一部を改正する条例について
- 議案第 17号 大玉村消防団設置等に関する条例の一部を改正する条例について
- 議案第 18号 大玉村総合福祉センターさくらにおける指定管理者の指定について
- 議案第 19号 大玉村産業振興センター及び大玉村ふれあい広場における指定管理者の指定について

5. 本会の書記は次のとおりである。

議会事務局長 矢崎由美、書記 菊地拓也、鈴木真一、藤田良男

一般質問者目次

1.	7番	鈴木康広	P. 119～
2.	3番	菊地厚徳	P. 127～

会 議 の 経 過

○議長（菊地利勝） おはようございます。

ご苦勞さまでございます。会議に先立ち申し上げます。

本日の一般質問は、議会だよりで使用する予定の写真を事務局で撮影いたしますのでご承知願います。

ただいまの出席議員は12名全員であります。定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

なお、住民生活課長、安田春好君から忌引のため欠席する旨の届出がありましたので、ご報告申し上げます。

（午前10時00分）

◇

◇

◇

○議長（菊地利勝） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

◇

◇

◇

○議長（菊地利勝） 日程第1、一般質問を行います。

7番鈴木康広君より通告がありました「農業支援で豊かなふるさとを守る」ほか1件の質問を許します。7番。

○7番（鈴木康広） 7番鈴木康広です。議長の許可をいただきましたので、「農業支援で豊かなふるさとを守る」ほか1件の質問を行います。

昨日からの一般質問の中で、村長のほうの答弁があったとおり、大玉村の基幹産業というのはあくまで農業だと思います。特に稲作とか。稲作、これが今、米価も含めたいろいろな状況等により衰退の危機に陥っています。もし、大玉村内の水田が耕作がされなくなってしまい荒れることがあれば、これはふるさと大玉村の荒廃につながってしまうということを危惧しています。

その一つが担い手不足などという形のものがあります。その点を踏まえ、今現在農業についてはドローンもしくはコンバインなどを無人で操作できる先端技術の開発が進んでいます。その先端技術を経営に導入することで経営継続ができないかという観点から検証のほうの質問をいたします。

さきに、これまで米の価格、消費の動向、または現在の主食用米と飼料用米の実績はどうなっているか質問します。

○議長（菊地利勝） 産業建設部長。

○産業建設部長兼農業委員会事務局長（菅野昭裕） 7番議員さんにお答えをいたします。

これまでの米の価格、消費の動向、また現在の主食用と飼料用米の実績というお尋ねでございますが、国内における米の需要量、これにつきましては10年前の平成22年では約814万トンでございました。翻って令和2年では約714万トンということになりまして、10年間で約100万トンの需要が減っている現状でございます。

ここ数年の間では、毎年需要量が年間10万トンずつ減っているとされているよ

うな状況でございます。この取引価格につきましては、過去10年間で最高の年となりました平成24年におきましては、60キロ当たり1万6,501円の平均価格でしたが、平成26年では60キロ当たり1万1,967円ということで、この10年間で最安値というものになりました。その後、徐々に回復いたしまして、令和元年産におきましては60キロ当たり1万5,720円まで回復を見たところでございますが、令和2年産では60キロ当たり1万5,001円と再び下落に転じたところでございます。

これらの動向につきましては、人口減少による需要の減少、あるいはコロナ禍による急激な需要が喪失していることが原因というふうに言われてございます。これらについて民間在庫の積み上がりによって米価が上下動するというふうな傾向でございまして、26年産米の市場最低までの下落、これは米価の動きからしますと25年、26年産と同様の傾向が見られるというふうに言われてございます。

したがいまして、今年の実需量の減少と、それから作況指数によっては令和3年度さらなる米価の下落が懸念されている状況でございます。

次に、本村における主食用米と飼料用米の作付の現状であります。令和2年産主食用米の作付面積は約833ヘクタールでございます。飼料用米の作付面積は約13ヘクタールとなっております。生産量につきましては基準単収で換算いたしますと主食用米が約4,573トン、飼料用米が約71トンというふうな実績でございます。

以上であります。

○議長（菊地利勝） 7番。

○7番（鈴木康広） ありがとうございます。

今、米価のほうは平均の、全国の米価も含めて確実に下がってきていると。ただ、一時期に比べれば戻してはいるんですが、原発以降、福島県には風評被害というのが根強くまだあると。福島県の米はどうしても先に売れていかない、在庫として残る、そのために福島県のほうの米についてはほかの平均単価よりも低めに販売されている実績なども伺っています。そう考えれば大玉村の農業のほうの置かれている状況、これは一層厳しいものがあるというふうに認識しています。

また、主食用米、飼料用米の割合については、今全国的な、一括管理方式とか区分管理方式という形でこういうものを進めていきたいという国の政策があるんですが、その数量にまだ大玉村については達していない。もう少し飼料用米が増えても構わないと思うんですが。

実は今、大玉村は米のブランド化に取り組んでいます。土壌分析により、どういう土壌で米を作れば、どういう食感、どういう味覚の米ができるか。大学のほうとも連携しながらおいしい米、実際においしい米を作ることによって、大玉村の米をより少しでも高い値段で喜んでお客様に提供するという形を村全体を挙げて取り組んでいます。

ただ、実際に今、村内の農業の受け手、実際に担い手がどんどん不足している状況

を踏まえますと、高品質による米だけじゃなくて、低コストで生産して収穫量の多いような米のほうの生産も検討する時期に来ているのではというふうな認識であります。このことについて、今現在、どういうふうな検討がなされているかのほう伺いたいと思います。

○議長（菊地利勝） 産業建設部長。

○産業建設部長兼農業委員会事務局長（菅野昭裕） 7番議員さんにお答えをいたします。

まず、米のブランド化につきましては、今ほど議員ご指摘のように大玉村の米のおいしさ、これを科学的に立証することによって、この大玉村産の米というものを全体を底上げしていきたいという考えの下、現在、福島大学食農学類と共同研究を進めているところでございます。

翻って、低コストで収穫量の多い米の生産も検討するべきではないかというふうなご指摘でございますが、本来、農業経営に関しますと低コストというものと多収品種というものの栽培というのは、必ずしもイコールになるというものではございません。

低コストを追うということであれば、どこを、じゃ、どういうふうなコストをカットしていくのかという部分と、それから多収品種ということになりますと、通常の主食用米とは別な形での販売価格がどのようになっていくかというふうな部分が鍵となりまして、これによって収益がどう上がるのかどうなのかということが鍵となると考えてございます。したがって、主食用米とそれから今ほど申し上げました飼料用米、そういったものの栽培ということも併せてこれについては検討していくべきものというふうに考えてございます。

以上であります。

○議長（菊地利勝） 7番。

○7番（鈴木康広） ありがとうございます。

2つの方向性で村は今後検討していきたいという話がありました。

なぜこういうことを話すかなんですが、実際に今、村内で、農地を集約して少しでも大きな形で皆様から田んぼ、集めている方というのは、人数が今、決まっているのか今現在やっている方以外に新たにそれに参入するというのは、今のところ私の知る範囲ではありません。どうしても、自宅で、家族で農業をしていた人が高齢になってやめると。どこかにその農地を集約したいと、お願いしたいと、貸したいという方は多いんですが、じゃ、それを全部受けてくれるという状況に今現在はないのか。もしくは今後、この状況はなお一層進んでしまうと思います。

であれば、米を集約して生産されている方のうちの誰かでもいいんですが、もしくは新たに今後そういう人が出てきた場合に、今言った低コスト、どうやってコストを減らして収入を上げていくか。一番はやはり人件費だと思います。ですから、今まで1人当たり、企業的農業によって1人の農業生産が3ヘクタールとか、5ヘクタールとか。じゃ、要するにその農業法人に何人いるかとかあると思うんですが、それを先端技術、ドローンなどを導入することによって、その倍とかの農地面積を引受けできることがあれば、結果として農業生産コストの低減、あと、その米自体の品種を今

言ったようにどういう品種を選ぶか、それをどういうふうな流通経路に乗せていくかということをやうまくマッチすれば、これについては大玉村で新たな農業所得の形ができるのではないかと期待しているところです。

実は、前に全員協議会で渡されました産業課村おこし係のほうの、事前につくったものということで最終版ではなかったんですが、飼料用米を作付けた場合の収入試算額という想定というものをいただいております。この表を見ると、決して飼料用米が収入が少ないというわけではないはずなんです。ただ、これはあくまで試算であって想定であって、実際にはこのとおりにはいかない状況があるとは認識しています。

ただ、実際に飼料用米を生産していくことが、国の政策的に必要で、そこに大玉村、米どころです。当然おいしい米を作ると同時に、こういうふうな米についても、村の面積に見合った生産があってもいいのかなと。

そういう意味から、ドローン導入により生産コスト削減ということで、農業新聞1月26日、この新聞の報道では、直播で10アール当たり何と7分でできるという。これは本当にバーッとまいた時間、直播した時間ということなので、これぐらい単純にはいかないんですけども、直播によって稲を植えていくという、今までの田植え機でやるものに比べると非常に時間のほうの短縮、コストの削減が可能ではないかと。

ただ、直播ということが実は普通の今現在の大規模農業には向かない部分があります。コンバインが入らないんですよ、直播しちゃうと。ずっと、条まき、条状にまいていく形が必要だと。前は、ドローンで条状にまくことは不可能だったんですが、今はドローンの性能がどんどん上がっていて、農業専用のドローンというのが開発されています。それによって直播自体も可能になってきているという研究のほうの成果というか報告も、報道等もしくは新聞等にありません。

その、今の最先端技術が大玉村に導入する場合、その導入に係る費用、これは当然、農家のもしくはその生産法人が負担する形になる、その費用がどれくらいか。また、実は、震災などのほうのときに、人のほうを探すとかという形で、村のほうでドローンのほうの導入を行い、そのドローンのほうの操作のほうの技術が、資格が欲しいということで、そういう形を実際にとったという例があると聞いています。

農業用のドローン、これも操作に資格等が必要なのかも含めて伺いたいと思います。

○議長（菊地利勝） 産業建設部長。

○産業建設部長兼農業委員会事務局長（菅野昭裕） 7番議員さんにお答えをいたします。

まず、省力化という観点からの直播栽培でございますが、本村におきましても、平成27年度におきましては約9.3ヘクタールほどの直播栽培での作付がございました。その後において、直播栽培が生産調整の手法とならなくなった、いわゆる生産目安面積となったということによって、生産調整に振り向ける必要がなくなったというふうなこともありまして、徐々にこの直播面積による作付面積が減少しまして、令和2年度につきましては約3ヘクタールというふうな状況でございます。

村におきましては、省力化という観点から直播栽培により米を生産している農家に

対しまして、低コスト・省力化米づくり推進事業という事業におきまして、10アール当たり2,000円の助成を行ってきたところでございます。

こういった直播栽培、さらには今議員ご指摘のように、大規模農家等におきましてはドローン導入によって直播を行っているというふうなところがございます。ドローンの、まず飛行の承認に当たりましては、一定の技能、飛行経歴が必要となるため、技能講習を受講し、産業用マルチオペレーター技能認定証というものを取得する必要があるということでございます。さらに、農薬を散布する場合には、国土交通省の承認と県協議会への農薬散布許可申請が必要となりまして、農薬散布計画書を提出するということになります。

導入費用につきましては、そのドローンの大きさ、あるいはどういったアタッチメント、トラクターと同じですから、何をつけて飛ばすのかというふうなことになりますので、約100万円から300万円ほどの価格の設定がなされているというふうな状況でございます。

以上であります。

○議長（菊地利勝） 7番。

○7番（鈴木康広） ありがとうございます。

今、マルチオペレーターというか、その資格、産業マルチオペレーター。なお、あと農薬については、これ散布のとき許可のほうが必要ということで、当然これについては幾らドローンが平水性に富んでほかへの散布、ほかの影響が少ない、多分今のヘリを使うよりもドローンのほうが、周りの影響が少ないのかなと。そうすると環境負担も少なく済むのかなと思いますので、そういう形のものを実績がという形を伺いました。

ただ、費用面、これが当然幅があって、今回はある程度大規模に、法人などが実際に導入するという前提であれば、100万から300万の幅があるということですが、300万に近い、もしくはアタッチメントを含めば300万を超えるような費用負担、出費が考えられます。

であれば、その費用を今現在の農家、米の状況が決して米価が上がる予測が立たない、下がるんじゃないかと心配する状況を考えれば、その導入のために投資に向かうのは簡単ではありません。であれば、大玉村で、その先端技術導入のための先に先鞭を切る形で、村内の農家など、もしくは生産法人などがその技術を導入することによって速やかに低コスト化に移れるような方策があれば、非常に大玉村にとってもプラスになるのかなと思います。

農業公社のほうの件が、昨日から各議員のほうからいろいろ質問がありますが、その農業公社でドローンなど先端技術の支援を行う予定があるかという形で伺いたいと思います。公社で、農業用ドローンの機材を一式、ある程度その大きな生産に入れるようなもの、できるだけ最先端のものを購入して、そこで技術のほうをある程度村も関わって、技術のほうを確立して行って、それを先端技術導入を懸念する農家のほうに指導を行い、万有適正な対応も含めた支援を行えば、速やかに村内のほうに、今言

ったような低コストで、多くの生産法人もしくは生産の人が、大きな面積を担えるような形が生まれると思います。

その技術指導並びに機材の貸与を含めた支援を検討する予定があるかどうかお尋ねします。

○産業建設部長兼農業委員会事務局長（菅野昭裕） 7番議員さんにお答えをいたします。

先端技術等の導入の支援について、農業振興公社で検討するかというふうなことでございますけれども、農業振興公社での事業等につきましては、昨日もお答えいたしておりますように、現在、設立検討委員会におきまして協議・検討を行っているところでございます。

設立当初から、全てに対応するという事は極めて難しい課題であるというふうにご考えてございます。また、先端技術の導入等につきましては、先ほども申し上げましたように、この導入あるいはランニングコスト、それと販売価格等との見合い、それによって収益が見込めるのかどうなのかという大きなことが鍵となるというふうにご考えてございますので、今後、先端技術等の導入等の支援につきましては、機会を捉えまして協議・検討していくべきものというふうにご認識してございます。

以上であります。

○議長（菊地利勝） 7番。

○7番（鈴木康広） ありがとうございます。

今後検討ということで、確かにこれはまだ実際にうまくいくかどうか分からない、あくまで検討段階、研究段階であります。ただ、大玉村でほかの市町村に先立って村を挙げてのブランド化などなんて例を踏まえれば、先端技術の研究についても村のほうである程度コストを負担して、また、先端技術については県、国のほうのいろんなその支援のほうもあると思いますので、そういうのを村のほうで、どういうものがあるかを把握しながら、こういうものを求める農家、もしくは生産法人が村内にあれば、ぜひそのときそれに応えられるような準備を少しでも進めていただくということで、そういうお願いをしまして次の質問に移ります。

今、コロナによって、生活の形が大きく変わっています。人と会うこと、一緒に活動することがどうしても制限される状況にあり、ある程度、今、コロナの影響が下火になってきて、いろいろこれができないあれができないというのが少しずつ解除になって、またそのコロナのほうの感染状況によっては厳しい制限がかかったり、そういうふうな中でここ1年、あとコロナの影響が完全に払拭されるというか、なくなるまでには、ワクチン注射がある程度皆さんのほうに行き渡って、免疫のほうは、全体の免疫のほうは6割を超える状況にならないと、なかなか前に近い状況に活動状況戻らないというのが今懸念する状況にあると思います。

それによって社会参加活動が減少されているというのが今現状です。健康寿命を延ばすために、これは社会参加をすることによって運動不足、運動不足が一番体によってよくないんですね。またはその、人と会って一緒に活動して、笑ったりとか一緒においしいものを飲んだり食べたりとかということをする事によって、ストレスの発

散がなされ、生きがいつくり、自分と同じような立場の人たちと活動することによって、生きがいつくりにもなると思っています。これは、高齢者もしくは今一番仕事をしている世代、もしくは子どもたちも含めて全ての世代に必要なこと、これが健康寿命を伸ばすために必要なことだと思います。

実は老人クラブやサロン、体育協会等の各団体での活動状況、これが、活動が今まででできなかった、最近になって活動を始めたところもあるというふうに聞いています。なので、この今までの活動状況もしくはその今の状況等も分かればそれについてを伺いたいと思います。

○議長（菊地利勝） 住民福祉部長。

○住民福祉部長（中沢武志） 7番議員さんにお答えいたします。

老人クラブ、サロン、当部管轄の部署でございますので、こちらについてお答えさせていただきますが、老人クラブ、サロン等も、感染が拡大している時期、夏それから秋にかけて、冬頃まででしょうか、その頃にかけては各種の事業それぞれ縮小、それから中止ということで、大きな事業でありますと運動会とかそういったものが中止になっております。

また、老人健康管理事業、要は湯治でございますが、そういったものも、湯治はその頃は中止してございました。現在、少しずつ縮小、コロナの感染が若干また出てきておりますが、時期的に少しずつ下がってきておるという状況でありますので、少しずつは再開をしております。あとは、現時点では総会前の時期ということで、事業等はそうはございませんが、ただ必要な会議、例えば老人クラブ連合会で言いますと定例会、月1回開催しておりますが、そういったものは続けておりますし、また、活動をやっているところについても感染防止対策を施しながらやっているという状況は承知してございます。

以上です。

○議長（菊地利勝） 教育部長。

○教育部長（作田純一） 7番議員さんにお答えいたします。

体育協会、スポーツクラブにおきましては、国や県の緊急事態措置の解除を受けまして、村の体育施設も可能となりました令和2年6月から、体育協会加盟団体やスポーツクラブのサークル活動というのは再開してございます。

活動の再開に当たりましては、集合時の検温、手指消毒、施設や用具の消毒、換気、種目ごとのガイドラインに沿った感染防止対策を取りながら活動しているというふうな状況でございます。

また、体育協会では令和2年12月に研修会というのを実施しまして、コロナ禍でも運動不足を解消するための手軽にできる運動法というのを学んだところでございます。しかしながら、多くの人が集まる大会、行事等につきましてはほとんど実施できていないというふうなところでございます。

令和3年1月13日から2月14日まで、県の緊急対策期間となりまして、午後8時以降の不要不急の外出が自粛となりましたことから、その期間中に一部の団体で

は活動を休止したというところがございますが、現在におきましてはさきに申しました感染防止対策をとりながら活動を再開しているというふうな状況でございます。

以上でございます。

○議長（菊地利勝） 7番。

○7番（鈴木康広） ありがとうございます。

どうしてもやっぱり活動を中止したという部分があったんですが、最近になって活動を再開している団体が増えてきていると。実際にその活動を行う場合に、その活動を基にしてコロナがその中でクラスターの的に増えてしまえば、これは当然大変問題です。そういうふうな活動については控えるべきかと。

ただ、村内の各老人クラブやサロン、もしくは各体育協会の団体については、基本的には決まった人員で、決まった参加者で活動する機会が多いと。今言った、老人健康管理事業みたいに、外に出て行って、外の施設を利用する場合については施設での感染の心配が初期にはあったんですが、今各施設ではコロナに感染することを予防するために、多くの状況がわかっています。今多分、宿泊施設でコロナの原因あるいはクラスターが発生することはほぼないのかなと考えれば、経済を回すことも含めて、今から少しでも、今言ったような社会参加の活動を再開する必要があるのではないかと思います。来年度に向けて。

ちょうど今、年度末の総会等を行って、来年どうするのか、どういうふうな方向でやっていくのかという形を検討しています。大体の団体は、例年と同じ予定を組んで、同じ大会の目的を一応組んでいて、そのコロナの感染状況を見て活動に参加する、しない、もしくは活動自体、大会自体が中止になる、それに合わせていくという形になっています。

実際に、今長く活動を休止していた団体、もしくは最近になって活動を開始した団体等においては、当然コロナ防止対策のためにマスクをしながら活動する、もしくはやってきた時点で手の消毒、手指消毒などを行うとか、もしくは、場合によっては今言ったように検温、いわばみんなが集まったら検温したいんだとなったらば、検温への体温計が必要になってくるという形で、活動再開には今までにかかっている費用等もかかってくる感があります。

であれば、そのコロナ感染防止対策を行うための支援金を活動団体に、そういう名目で給付することによって、健康、長寿の大玉村を達成するために今から可能な、安全対策をしっかりとって、活動再開してはどうですかという方向性の一つになると思いますので、そういうふうな支援金等を給付等できないかということを知りたいと思います。

支援金の給付についてはどうでしょうか。

○議長（菊地利勝） 住民福祉部長。

○住民福祉部長（中沢武志） 7番議員さんにお答えいたします。

老人クラブ連合会というものとそれぞれ、その下に単位老人クラブ、地域ごとがございます。それぞれ、先ほどの答弁でも申し上げましたが、事業を中止、縮小してい

る関係上、予算的には事業をしなかったということは若干予算に余裕があるというふうに理解してございます。これは議員お話のとおり、これから決算期を迎えるわけですが、そういった決算の状況を見ながら、必要である場合には措置をするのが当然であろうかなと思ってございますが、なんせ事業をしていなかった分と、浮いた分と、必要な感染防止対策の費用、さほど違いは出ないかなとは当方で踏んでおります。

また、連合会のほうから、各单位老人クラブのほうには、過日の定例会の際にマスク等の感染防止用具類、それぞれの単位老人クラブのほうに配布してございます。いづれ決算状況を見ながら、必要であれば対応するような考えでございますので、ご理解をいただきたいと思っております。

以上です。

○議長（菊地利勝） 7番。

○7番（鈴木康広） ありがとうございます。

決算状況を踏まえてということで、各活動団体のほうで事業積み上げによって補助金の申請を行うところと、参加人数、何人いるから1人頭幾らという形で補助金が下りるところ、あると思っております。

活動を積み上げることによって補助金がもらえるところについては、活動をしなかった形上、その補助金については戻すべきなのかなと。となると、結局その各団体ごとに今言ったその台所事情は違うというのは確かだと思っております。ただ、今言ったように場合によっては厳しいところも出るかもしれないので、そういうところについて、手上げ方式、申請方式であっても、そういうことが可能っていうことの形があれば、その事業再開に村は積極的に支援する気持ちがあるということ、健康維持のために活動再開してはどうですかということの一つの意思表示だと思っておりますので、そういうことも検討していただけたらと思っております。

実は、本当にここ震災による影響、もしくはその後の原発、コロナという形でここ何十年かを振り返ってみた場合に、いろいろな苦難が大玉村に来て、その中で大玉村が何とかいろんな事業を行って、村民に少なくとも大玉村の村民は、いい村であると、人が住みたい村であるという形でほかにもアピールできている場になっていること、これは村長が今まで頑張ってきた形だと思っております。これからも、大玉村、このコロナの状況もしくはこれからの農業、これはもう日本が抱える大きな問題です。こういう問題を解決する手段、方法を大玉村からつくっていくことができれば、やっぱり大玉村は違うねと、大玉村に住んでみたいよねという方々も増えてくるのかなと思っておりますので、ぜひ積極的な検討をしていただくことをお願いしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（菊地利勝） 以上で、7番鈴木康広君の一般質問を打ち切ります。

3番菊地厚徳君より通告がありました「地元産の米や野菜と人を育てる直売所」の質問を許します。3番。

○3番（菊地厚徳） 失礼いたします。議長から許可をいただきましたので、質問をさせていただきます菊地厚徳です。

今回、私、質問をさせていただくのが何回目でしょう。自分でも数えながら6回、6回ということなんですけれども、一番今驚いているのは、今朝のニュースに驚きました。ニュージーランドの地震ということで、この3月の10年前をまた思い出すような状況がありましたけれども、あのときも2月に地震がありまして、3月ということで、そういう流れがあったところもあって、本当に今年のそういう思いが改めて先日の2月13日の地震のような形で思い出されるところがあります、本当に。

我々もともと、今回の質問につながりますけれども、農業ということで直売所の話をさせていただくんですけれども、農家は常に空を向いたり天気を気にしているんですけれども、私も例外ではなくて、その地震の前後で、夜も昼も空を眺めておりました。このとき、ちょうど今頃なんです、春分、秋分の日なんですけれども、私の近くでは真西のあの峠から…。

- 議長（菊地利勝） 3番議員さん。
- 3番（菊地厚徳） はい。
- 議長（菊地利勝） ちょっと中断して胸元を見てください。
- 3番（菊地厚徳） はい、分かりました。
- 議長（菊地利勝） 今日バッチしていませんね。
- 3番（菊地厚徳） あ、失礼しました。
- 議長（菊地利勝） あるならやって。
- 3番（菊地厚徳） 車に…（不規則発言あり）恐れ入ります。すみません。
- 議長（菊地利勝） 質問の前に言えばよかったですけれども。
- 3番（菊地厚徳） ありがとうございます。失礼しました。
- 議長（菊地利勝） 引き続きお願いします。
- 3番（菊地厚徳） ありがとうございます。

私もそういうところで農家ということで、なんでしょう、立場が違くと見えるものが違うというそういうものを本当にひしひしと、震災の後、農業を離れるということにもなりましたけれども、天気を気にしたりとか、空を気にしたりで、初めてお月さんがどういうふうに動くのかとかそういうことを見られて、月が西から昇って満月が昇って東に沈む、同じようなところなんですけれども、私のところでは峠のところから真東から月が満月が昇って、夕方になると真西のざる山というんですか、あのとっぺんに沈んでいくんですけれども、そういう航路を取ります。

そのとき、今地震の話とつながってしまうんですけれども、1か月ほど前に、真っ赤な月が昇って、ああと思ったらニュージーランド、このあとまた、地震で月が真っ赤になったとそういう自然現象を気にしながらなんです、それがどんな影響で、どんな関係になっているのか、私は分かりませんが、ただ、自然をこう見ていると、あとで思うような…（不規則発言あり）失礼しました。そういう変化を感じます。（不規則発言あり）そのような変化を感じております。

失礼しました。農業ということの話で、先ほどの話にもありましたけれども、細かい米の話は今回は私はございませんで、直売所ということで何回か質問はさせていた

だいております。

質問に入らせていただきたいと思います。すみません。

まず、今回この地元産の米や野菜を育てて、野菜と人を育てる直売所ということで、問いを立てさせていただきまして、ここで今、そちらのお手元にもあるとおり、地元の方にこそ地元産の食材を食べていただき、地元の経済を循環してほしい。

これですね、この経済循環、地元の、例えば村内でということなんですが、直売所には兼業農家などの多様な人材を育てる拠点になってほしい、これが直売所であってほしいという思いであります。

それと、地産地消を基本に、地域を支える人材を農業で発掘できないか、メインはこちらです。地産地消ということで、今まで皆さんがいろいろ質問された中で、答弁を伺って、そのお考え、農業振興公社のことをいろいろお伺いして、今、日本が抱えているところでどういう方向に進むべきかというところで、ある投資家の方が、これからの日本は観光と農業と教育であるというすごい言い方をされていたんですけれども、農業か、うんなるほど、農業に投資するそうです。ということは、有望であるということなんですけれども、その視点から見ると…

○議長（菊地利勝） 3番さん。

○3番（菊地厚徳） はい。そういうことで…

○議長（菊地利勝） 本題に入ってください。

○3番（菊地厚徳） はい。そういうことで一番私が、今一番最後のことで立っておりますけれども、皆さんの質問と、執行部の方々、職員の方々の答弁を伺ったときに浮かんできたのは、農福連携という言葉が浮かんでまいりました。これからの大玉村、観光とそれから農業と教育という話になるかどうか、それはあれですが、でもそれを考えたときに、村のかじ取りやっているのはまさにそれではないかと私は今まで、議会6回やる中で感じておりました。

そのところで、今農福連携という話でイメージが浮かんできたところで、それを頭において、地産地消と併せて、じゃ、その地産地消とは何なのかといったときに、その振興公社との兼ね合いでこの質問を見ながら、皆さんと見ていただければありがたいと思っております。

1番、まいります。本宮方部の学校給食センターは地元産の米を使用しているが、米以外の食材で、地元産は使用されているかということでお伺いしたいと思います。

お願いします。

○議長（菊地利勝） 教育部長。

○教育部長（作田純一） 3番議員さんにお答えいたします。

ご質問のとおり、お米につきましては全量地元産、大玉産のものを使用しております。その他の食材の使用状況につきましては、ジャガイモ、長芋類の芋類、白菜、ネギ、大根等の野菜類、果物ではリンゴが使用されてございます。

福島県の令和2年度学校給食における地場産物の活用状況調査結果によりますと、本宮方部学校給食センターの使用状況は、1食の献立に使用する食材のうち、地元産

の占める割合は28.5%で、県平均の22.2%を上回っております。

また、県北地域の使用割合の平均というのは16.0%でありますことから、本宮方部学校給食センターの使用割合は比較的高い状況というふうな状況でございます。

以上でございます。

○議長（菊地利勝） 3番。

○3番（菊地厚徳） ありがとうございます。

28%、びっくりです。ありがとうございます。地元産のこともそうですけれども、多くの割合でどのくらいだろう、米だけだろうな、あとは…と思ったんですが、びっくりしました。たくさんの野菜を使っているから、本当に、やっぱり経済ですから消費して生産が循環しているというところでやっぱり一番思うのは地元で循環するということでもあるんですけれども。ありがとうございます。

それでは、2番目の質問をさせていただきたいと思います。

農業振興公社の役割として、担い手農家の補完と協調や育成をし、新規就農者を受け入れ、地域に根差した農業を支える拠点とする、これは前に質問したときにこういう目的でということでお話しいただいたことをそのまま書きましたけれども、その後、担い手の育成を最も効率的に行う方法は、私ごとなんですが、現在直売所に出荷している農家の方々の収入を増やす方法を考えることではないかということ、これは当たり前だろうと言われれば当たり前なんですけれども、この辺のところ、どういうふうなところでというか、何度もお話し伺っているんですけれども、ひとつもう一度お話し伺いしてみたいと思います。

お願いします。

○議長（菊地利勝） 産業建設部長。

○産業建設部長兼農業委員会事務局長（菅野昭裕） 3番議員さんにお答えをいたします。

担い手の育成というふうな部分でございますけれども、この育成確保につきましては、当然収入が増加するというところで生産意欲を向上させるということも一つの手法であると存じますし、また、消費される方においしいというふうに言うだけで、やりがいを感じ、生産意欲の向上につながるという部分もあろうかと存じます。

現在、直売所の運営につきましては、村から指定管理ということで村づくり株式会社のほうに運営をお願いしているところでございまして、これらの販売方法等については、直売所が直売会と十分協議しながら進めていくものというふうにご覧いただけます。

村におきましては、この端境期等の出荷量をどう確保していくかという観点から、ビニールハウスの設置補助、こういったことを行っているところでございます。野菜等の栽培、これをビニールハウスで行うことによりまして、端境期での野菜の量を十分に供給する、こういったことで収入の増加も見込めるということも併せまして、村として風評払拭も含めPRも併せ、こういった支援を続けていきたいというふうにご覧いただいております。

以上です。

○議長（菊地利勝） 3 番。

○3 番（菊地厚徳） ありがとうございます。

やっぱり品ぞろえが続かないというのが一番の問題であると思います。それで、施設栽培や、今言ってくださったようにビニールハウスで冬場供給をすとか、いろいろな方法で補助をしていただいたりとか、そういうことは承っております。その中で、今回一つ直売所ということと、それから直売所の生産者の生産農家の方々、その方々がどういう形でという、前は一つアンケートをしていただいているかということでお話は伺っていたんですけども、なかなかその直接のアンケートとか、それから直売所でのイベントやなんかのことについてのアンケートとか、農家さんとそういうことはあんまり情報のやり取りを組合以外のところではなさっていないということをおっしゃっていたんですけども。

ここですね、この農家さんがどのような形でやっていくかということで、私、ここで思いましたのは、農家さんを育てて農家さんを豊かにするということですけども、地域おこし協力隊とか村おこしの協力隊の方が一緒になって、農家さんの収入を高めるような方法、そういうことをしていただけるということなんですけれども、そこで、一つあるのは、私ここに来る前に直売所でキュウリを買いました。JAの直売所でもキュウリを買いました、ちょっと前ですけども、四、五日前なんです。

キュウリを200円で、あつちはJAのほうは170円で売っていたんですけども、大玉のキュウリは、結構、おっ、これは絶対キュウリじゃない、200円で売っていたんですけども、結構短めの太めのキュウリがゴロゴロと入っていたんですけども、これはズッキーニかもしれないと思ったんですけども、いろいろな方向でそれはキュウリと書いてあるからキュウリだったんですけども、これは結構、農家さんの認識というのも含めて、なんでしょう、商品としての考え方とか、そういうこともあれなんだなと思ったんですけども、その辺のところですね。

これはいい、悪いではなくて、直売所自体が皆さんのための直売所ということなのであると思うんですけども、私、先ほど一番最初に今回のテーマとして掲げましたのは、農福連携ということで、ここが非常に重要だなと思ったんですけども、農福連携ということは、結局、福祉と農業を一緒にすることなんですけれども、例えば今、今年オリンピックがございまして。オリンピックとパラリンピックという形になるんですけども、じゃ、あの方々、どういう状況で、あれはもう掌握されているので、とても経済効果やなんかというので以前のオリンピックとは違うという指摘がされておりますけれども、例えばオリンピックの、普通のオリンピック、それでパラリンピックという障害者の方々をメインとした…

○議長（菊地利勝） 3 番さん。

○3 番（菊地厚徳） はい。

○議長（菊地利勝） この質問の趣旨にのっとって…。

○3 番（菊地厚徳） そうです、この今、質問の趣旨なんです、直売所のその利益を上

げて人材を育成するという事で今お話しさせていただいているんですけども、その考え方の中に農福連携というところがあるということで、そのところで、福祉の考え方を、例えばオリンピックの方と障害者の方が一緒に例えば走るという状況で、トレーニングをしたというんです。そのときに、オリンピックの方が障害者の方のトレーニング方法を見て、あ、自分でこれはすごいぞと、ああ、自分もこれをやったら記録が伸びるかもしれないというそういうことに気がついたそうなんです。

それは、取りも直さずどういうことかということ、これは、障害者の方、健常者の方という分け方ではなくて、これは自分自身の情報のやり取りでお互いに立場が違う、全然違う存在なんだということである意味ではこれは異文化交流なのだと。

前、お話しさせていただきましたけれども……。

○議長（菊地利勝） 3番さん。

○3番（菊地厚徳） はい。

○議長（菊地利勝） 質問、中止しますよ。

○3番（菊地厚徳） はい、分かりました。

そういう思いで、（不規則発言あり）農福連携でございます。（不規則発言あり）今のところで、農業と福祉の連携という考え方のところで申しますと、今、福祉ですね、福祉のところで在り方ということで今させていただきました。

失礼します。それでは、もう一つ、もう一つ、すみません。今のところで質問させていただいて、今ビニールハウスや施設のことをお話しいただきましたので、それではちょっと、今考え方としてのものなんですけれども、ただ、今農業として考えるときに、お互いのことを理解するという意味で、農福連携というのはそのまま福祉ということだけではなくて、例えば直売所とつながる、今直売所の話なので、直売所とつながったりとか、そこに壁をつくるのではなくて、お互いがお互いで情報交換できるような場をぜひとも設けていただくような運営、経営の仕方というのがあるのではないかと。

すみません、そのような話の中で、ちょっと話が長くなってしまいましたけれども、お話しさせていただいております。

3番目にまいります。（不規則発言あり）

2番目は今…。お答えいただいてないですか。

失礼しました。そういう形で、考えさせていただいて、今、すみません、2番目は終わっているということでありますけれども、農福連携の話ですけれども、いいんです、もうそういうことであれなんですけれども、今、福祉の、これは村の方針として農福連携という話をされておりますけれども、農業の中には、もうこれは百姓という言葉もありますけれども、100のものを、いろいろな工程を、技術をもってやるということで、農業を主体にしてやるというその農福連携の考え方がすばらしいと思うのは、いろいろな人に、いろいろな状況や立場のもので寄り添った状況で農業が自然という…

○議長（菊地利勝） 3番さん。

○3番（菊地厚徳） はい。

○議長（菊地利勝） 読み上げます。

通告書の質問に従って質問してください。

○3番（菊地厚徳） はい。分かりました。

○議長（菊地利勝） 分かりましたか。私のほうを見て。

もし、もう1回通告のときには、もう一般質問中止しますよ。

○3番（菊地厚徳） 分かりました。

○議長（菊地利勝） 毎回なんだから。

○3番（菊地厚徳） 次にいきます。3番です。

直売所の生産者の多様な人材の確保はどのように考えているかということなんですけれども、その多様という意味では農福連携に絡めてお答えいただければ。

お願いいたします。

○議長（菊地利勝） 産業建設部長。

○産業建設部長兼農業委員会事務局長（菅野昭裕） 3番議員さんにお答えをいたします。

直売所の生産者の多様な人材の確保をどのように考えるかというふうなご質問でございますけれども、直売所に出荷される生産者の中には、古くからの野菜づくりをされている方もございますし、少量多品種に取り組んでおられるような、そういった方もございます。そういった多種多様な人材の方々、直売会というふうな組織の中で、直売所と十分に連携を取りながら、村としてそれを支援しながら、この確保に努めてまいりたいというふうにご考えてございます。

農福連携という考え方でございますが、これにつきましては、現在策定中の第5次総合振興計画におきまして、地域の営農確保に向けた取組を促進するという考え方の中で、農福連携、施設園芸を障害者雇用により検討していくというふうなことで検討課題として掲載をさせていただこうという考えをしているところでございます。

以上であります。

○議長（菊地利勝） 3番。

○3番（菊地厚徳） ありがとうございます。

農福連携、直売所の方のその人材確保ということで、いろいろなところで村おこしの協力隊の方であるとか、いろいろそういうことも協力していただいているということとはあります。

それと、今回その、今農福連携というお話もありましたけれども、この直売所の中で、今お話の中で、農業振興公社という考え方がございます。これはいろいろなところで、先ほどお話しさせていただいたこともあるんですけれども、その中でいろいろ収入……4番目なんです、4番目なんです、収入を増やすということで、いろいろその公社が補助をしていただいたりとか、そういうことでやっていただくということで、4番目の問いをさせていただいております。ちょっと話をさせていただきます。

集配などのネットワークの仕組みを村づくり株式会社がつくり、収益を上げる方法を確立すると。これは、村づくり株式会社もそうですけれども、振興公社との関わり

とか、そういうこともお話しいただいておりますけれども、生産者は、家族や農家に興味のある多様な、先ほどもさせていただきましたが、多様な人材に自分の生産方法を引き継ぐ、ここですね、いろいろな農法とか考え方があると思うんですけれども、引き継ぐことで、その人材育成につながるのではないかと。ですから、生産農家の方、出荷されている農家の方、そういう方を、そういう方向から支えるということでお話しいただければと思います。

お願いします。

○議長（菊地利勝） 産業建設部長。

○産業建設部長兼農業委員会事務局長（菅野昭裕） 3番議員さんにお答えをいたします。

直売所における集荷等につきましては、昨日副村長から答弁いたしましたとおり、現在村づくり株式会社でその内容について検討してございますので、これらの実施に当たりましては、村といたしましても、積極的に支援、協力をしてまいりたいというふうな考え方でございます。

また、生産方法を引き継ぐことで人材の育成にもつながるというふうなお尋ねでございますが、これは決して直売所に出荷される方だけではなくて、村内の農業者全体に関わるものではないかというふうに考えてございます。したがって、村といたしましては、引き続き小中学生を含めた村民の方々に、この農業、農家というもののありよう、そういったものをよくご理解いただくことによって、その生産方法等を引き継ぐ、あるいは人材を育成していくというふうな方向を考えているところでございます。

以上であります。

○議長（菊地利勝） 3番。

○3番（菊地厚徳） そうですね、直売所というのは多くの方が利用されますので、どんなものを販売されているとか、地元のものでなくても、いろいろなものをこう見て、自分自身が食べるということを敏感になっていただくという場ではあると思います。

それと、物を食べるという行為ですけれども、大玉村、美しい村ということで、じゃそれで、健康である、きれいに清掃された村が美しいかとかそういう言い方もあるかもしれませんが、心身ともに健康で食べることから健康になるというのは一つ基本だと思いますので、そういう意味ではこれから、大規模であるか、小規模であるか、中規模であるか、それは農業振興公社のほうで全部を支えてやっていただくというお考えでいらっしゃるということで、私は非常に心を強くしたんですが、一つ、例えば、考え方の中で思いますのは、農業ということは自然と一番近いところにおいて、大玉村の人たちはそういう意味ではとっても精神的に安定剤を持っていると思うんです。それをどういうふうに考えるか、福祉の方もそうですけれども、農業がいろいろな側面を持っているということで、対応できると思うんですね。そういう意味で、野菜もそうですが、いろいろな農業は栽培法、先ほど鈴木さんもおっしゃっていましたが直播でやるいろいろな栽培方法もございます。そういうところで、いろいろなものを寛容に受け入れるということで、本当の意味でそれぞれの違いを受け入

れる。皆さん、何かこう違っていると、今、野菜がエフワン一種でそろっていつも時期が同じようになっていますが、実はそれぞれに地元の固定種というのは育ち方も、大きさもふぞろいになって、でも味があって強いというそういう特徴もございます。

ですから、収穫としては一遍に出るのではなくてある程度期間を持って、幅がある、許容力のある出荷の状況があるというのが野菜の、その地元の地のものよさでもあります。そういう意味で、大玉村が掲げております、大いなる大玉村というのは、それぞれの個人の個性を認めて、それぞれが特別なオンリーワンという歌がありますけれども、そういう意味で大いなる自己肯定の村であるという、そういう捉え方を私しております。

何か取り留めなく、何かあれなんですけれども、基本的に、今回のところで直売所というのはエネルギーの拠点になっていただいて人を育てる、そして農福連携というのが単純に福祉ということではなくて、それをお互いの交流をもっと深めることで、こういう作り方がある、こんな人がいるということをもっと身近に交流すること、違いを認めるということですね。

ですから、それは、違うということは実はマイナスではなくてプラスなんだという捉え方、目が見えなければ何か鼻が利いたりとか、六感が働くとか、そういう方向なんだということで捉えていただくと、農業の奥深さも、農福連携ということも、きっと結果としてですけれども私はそういうふうに理解させていただきましたので、ぜひともよろしく願いいたします。

ありがとうございます。

○議長（菊地利勝） 一般質問終わりですか。

○3番（菊地厚徳） はい。終了いたします。

○議長（菊地利勝） 以上で、3番菊地厚徳君の一般質問を打ち切ります。

ここで休憩のため暫時休議いたします。再開は午前11時25分といたします。

（午前11時06分）

◇

◇

◇

○議長（菊地利勝） 再開いたします。

（午前11時25分）

◇

◇

◇

○議長（菊地利勝） 日程第2、議案第1号「令和2年度大玉村一般会計補正予算の専決処分（1月）の承認を求めることについて」を議題といたします。

質疑を許します。11番。

○11番（押山義則） 専決することに何の異議あるものでございませませんが、このワクチン接種について、これ医師会委託と伺っております。

それなりに今現在の最新情報とか、二本松柘病院の状況とかなんかを捉えまして、その見通しといいますか、考えておられる村民への周知方法だけほどのように考えておられるのか、確認しておきたいんですが。

○議長（菊地利勝） 住民福祉部長。

○住民福祉部長（中沢武志） 11番議員さんにお答えいたします。

住民への周知の方法ということでございましたが、まず、接種券、クーポン券という言い方もしているようでございますが、2回分の接種をできる権利がある券を発行いたします。これにつきましては、ワクチンの供給時期の前に送らなければいけませんので、早ければ現時点のワクチン供給が、先日の本会議でもありましたように4月下旬になる見込みということであれば、1か月弱程度の間隔が適当かなと現在は考えてございます。

これらにつきましても、優先順位の順番で発送予定でございます。現時点では、まず65歳以上の方に、これは二本松、本宮とも同一町村的な考え方を持っておりますので、合わせたいと考えてございますが、それらをまず第1弾に。その後、それ以外の方々に一斉に送るような形になろうかなと現在での考えでございます。

以上です。

○議長（菊地利勝） ほかにございませんか。

（「質疑なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 質疑がないようですので、質疑を打ち切りたいと思います。質疑を打ち切るにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、これより議案第1号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長（菊地利勝） 日程第3、議案第2号「令和2年度大玉村一般会計補正予算の専決処分（2月）の承認を求めることについて」を議題といたします。

質疑を許します。質疑ございませんか。11番。

○11番（押山義則） この専決処分についても、専決は問題ないと思っておりますが、ただ、このそれぞれの経営持続化給付金について、対象者、これの受給資格という言葉は適当かどうかは分かりませんが、それほどのように当局で捉えておられるのか確認しておきたいんですが。

○議長（菊地利勝） 産業課長。

○産業課長（渡辺雅彦） 11番議員さんにお答えいたします。

まず、農業経営持続化支援交付金なんですけれども、こちらにつきましては、対象

が果樹農家と畜産農家ということで、今回限定させていただいております。

果樹農家の方につきましては、対象月を令和2年3月から12月の10か月間といたしまして、前年同時期と比較いたしまして収入が20%以上減少した月が3か月以上ある方ということで設定させていただいております。

また、畜産農家のほうにつきましては、以前、前回、畜産農家につきまして第1弾として畜産農業持続化支援金ということで交付しておりますので、そちらの交付を受けた方につきましては、対象月を8月から12月の5か月間、前回の支援金を受けていない方につきましては、令和2年3月から12月の10か月間ということで設定いたしました。今回は、1頭当たりの販売の平均単価を比較しまして、平均単価が10%以上減少した方に支援するといった内容でございます。

あと、中小企業持続化給付金なんですけれども、こちらにつきましては対象月が令和2年8月から12月の間です。交付対象者につきましては、前年同時期と比較しまして30%以上かつ50万円以上の減少になった方の中小企業、個人事業者等へ支援するという内容でございます。

以上でございます。

○議長（菊地利勝） ほかにございませんか。

（「質疑なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 質疑がないようですので、質疑を打ち切りたいと思います。質疑を打ち切るにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、これより議案第2号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長（菊地利勝） 日程第4、議案第3号「大玉村議会議員及び大玉村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定について」を議題といたします。

質疑を許します。ございませんか。11番。

○11番（押山義則） この内容の中で、ちょっと確認しておきたいんですが、選挙カーについて、個別契約方式のこと、当局からこの案内の説明文のビラを頂いたんでありますが、これの中で、車についてです、個別契約の中で、自己所有とか家族所有のことの捉え方とか、レンタカー、それから放送機材の利用、使用とかそれにつ

いて機材の利用費とか取付費用について、その辺の取扱いが載っていないので、その辺確認しておきたいんです。

それから、ポスターのことについてもありますが、写真撮影費用はこれに含まれているのかどうか確認しておきます。

それから、選挙用のビラの作成、これ配布が可能になりました。これ、検閲が必要となるんですが、これは立候補説明会で詳細が説明されて、そこでその中で検閲とかなんかについては状況説明がされるのかと思うんですが、その点についても確認しておきます。

以上です。

○議長（菊地利勝） 総務部長。

○総務部長兼総務課長（押山正弘） 11番議員さんにお答えをいたします。

初めに、選挙運動用自動車関係でございます。これにつきましては、あくまでも契約方式というのが前提になります。上段のハイヤー方式はご存じかと思いますが、個別契約方式につきましては、あくまでも本人、または生計同一の親族、この方々の所有する車については対象外になります。

これについては、ただし書については、例えば家族の方が経営する会社、会社から借り上げる、こういう場合については当然対象にはなりますが、個人所有のものについては一切対象外ということでご理解いただければと思います。

そして、あくまでも自動車の借上げ費用ということでございますので、それに附帯するものについては一括ということになりますが、今のお話のとおり、例えば車を第三者の方から借り上げて、そこにいろんな設備をつけるのであれば対象になるかと思いますが、車自体の個別契約ということになりますと、これはそこには含まれないということになるかとは思いますが、なお、まだ逐条等が出ておりませんので、これについては後ほどそういった詳細な逐条解説が出ました際に改めて説明会、そういった場を利用させていただいて、詳細の説明に代えさせていただきたいと思っております。

次の、ポスターの製作費用関係でございますけれども、これも今まで、村長選挙、村議会議員選挙、それぞれ対象外でございました。これにつきまして、法律のほうは制定されておりますが、まだ省令関係の詳細が見えてきておりません。これにつきましても、その写真の部分、これが含まれるかどうか、これにつきましてはそういったものを確認次第、説明会のほうで詳細にお知らせをしていきたいと思っております。

最後の、選挙運動用のビラ関係でございますけれども、これにつきましては、前回の村長選挙の際からはこれは認められておりました。これにつきまして、検閲ということではございませんけれども、ビラ自体は大きさの制約はございますけれども、おおよそA4判サイズになります。これの記載は自由でございます。裏面、両面使っても構わないということでございまして、記載内容は自由ですが、ただし法令に引っかかるような誹謗中傷でありましたり、そういったものの記載はできないということになります。

そのために、立候補予定者説明会以降期日を定めて、そのビラの提出を求めること

になります。そのビラには、選挙管理委員会が発行します証紙を貼っていただくことになります。例えば、上限であります、ここでは1,600枚、議員の皆様方の選挙、この1,600枚、全部使用するとするならば、その1,600枚に小さい証紙なんです、それを1枚、1枚貼っていただく、貼らないと公職選挙法違反になりますので、ご注意ください。

さらに、頒布の方法というのも限定されております。これにつきましては、1つは新聞折り込みと、2つ目が選挙事務所内での頒布、あとは個人演説会場内での頒布、最後が街頭演説会の場所での頒布ということで、当然、戸別訪問は公職選挙法上禁止されておりますので、そういった際の頒布というのは完全に公職選挙法の違反ということになりますので、ご注意ください。

こういった、今改正になった部分につきましては、選挙の際に、選挙の手引というものを必ずお渡しするようになりますが、その中に詳細に記載をさせていただいて、ご説明のほうはさせていただきます。

今回の、重点的に改正になった部分の一つとしまして、議員の皆様方の選挙におきましても供託金が出るようになります。今お話しした選挙の公営につきましては、供託金没収点というのが設定されます。これも記載のとおりご覧いただければ分かるかと思いますが、参考までに、例えば投票率が80%の場合ですと、今ざっと計算しますと、この場合ですと47票、90%の有効投票のパーセントから言いますと53票というふうな票数を下回った場合については、この選挙の公営は適用外ということで、一切公費からの支出はなくなります、ということにご注意いただければと思います。

以上でございます。

○議長（菊地利勝） ほかにございませんか。

（「質疑なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 質疑がないようですので、質疑を打ち切りたいと思います。

質疑を打ち切るにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、これより議案第3号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長（菊地利勝） 日程第5、議案第4号「大玉村社会教育指導員設置条例を廃止する

条例について」を議題といたします。

質疑を許します。質疑ございませんか。

(「質疑なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 質疑がないようですので、質疑を打ち切ります。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 異議なしと認めます。

よって、これより議案第4号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長(菊地利勝) 日程第6、議案第5号「特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。

質疑を許します。質疑ございませんか。11番。

○11番(押山義則) 鳥獣被害対策実施隊、これは止めさし可能な方、要するに第1種の銃猟免許を持っている方が該当者ということで、2万円。2万円というのは安いか高いかちょっと分かりませんが、ちょっと少ないような気もするんですが。ただ、確認しておきたいこと1点あるんですが、この実績というか成果、それはあるなしにかかわらず支給されるということと理解してよろしいのでしょうか。

結局、隊員になっていて、実際になっていて活動しない方もおられます。年齢的なものとかなんかがあって。それでも、この実績あるなしにかかわらず支給対象となるのか、それだけ確認しておきたいんですが。

○産業建設部長兼農業委員会事務局長(菅野昭裕) 11番議員さんにお答えをいたします。

実施隊員に対します年報酬であります。年額という規定でございますので、これにつきましては年の任期についてお支払いするというものでございます。

以上でございます。

○議長(菊地利勝) ほかにございませんか。

(「質疑なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 質疑がないようですので、質疑を打ち切りたいと思います。

質疑を打ち切るにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 異議なしと認めます。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 異議なしと認めます。

よって、これより議案第5号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長(菊地利勝) 日程第7、議案第6号「職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。

質疑を許します。質疑ございませんか。

(「質疑なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 質疑がないようですので、質疑を打ち切ります。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 異議なしと認めます。

よって、これより議案第6号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長(菊地利勝) 日程第8、議案第7号「大玉村税条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。

質疑を許します。質疑ございませんか。11番。

○11番(押山義則) この条例改正は、このコロナ不況下の中、当然必要な考えなんだろうと思いますが、ホテル、旅館の固定資産税の減免、これ4月からということでありますが、それからの期間について確認しておきたいんです。恒久的なものになるのか、何年間と定めておられるのか。

あと、もう一つ原点に戻りまして、この条例改正に対する要請とか何かはあったのかどうかだけ確認しておきたいんですが。

○議長(菊地利勝) 税務課長。

○税務課長(菊地 健) 11番議員さんにお答えをさせていただきます。

まず、期間の関係でございますが、別に減免関係につきましては減免の要綱を定めております。今のところ、3年間という時限の要綱にしたいなというふうに考えてございます。

あと、要請はあったのかということでございますが、要請ではございません。あく

までも政策的なものというふうにしております。

以上です。

○議長（菊地利勝） ほかにございませんか。

（「質疑なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 質疑がないようですので、質疑を打ち切りたいと思います。

質疑を打ち切るにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、これより議案第7号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長（菊地利勝） 日程第9、議案第8号「大玉村保育所条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。

質疑を許します。11番。

○11番（押山義則） この条例の改正の、改正後の文言を見ますと、保育所の設置義務が村からなくなったというような理解をしてよろしいのかどうかだけ確認しておきたいんですが。

○議長（菊地利勝） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（後藤 隆） 11番議員さんにお答えいたします。

こちらは、議員ご指摘のところなんですけど、設置するということになってございますので、それを公私連携型を設置された場合はそれは除くということなので、設置に替えられるという趣旨でございます。

○議長（菊地利勝） ほかにございませんか。

（「質疑なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 質疑がないようですので、質疑を打ち切りたいと思います。

質疑を打ち切るにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、これより議案第8号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長（菊地利勝） 日程第10、議案第9号「大玉村ひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。

質疑を許します。質疑ございませんか。

（「質疑なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 質疑がないようですので、質疑を打ち切ります。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、これより議案第9号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長（菊地利勝） 日程第11、議案第10号「大玉村国民健康保険条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。

質疑を許します。質疑ございませんか。

（「質疑なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 質疑がないようですので、質疑を打ち切ります。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、これより議案第10号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長（菊地利勝） 日程第12、議案第11号「大玉村介護保険条例の一部を改正する

条例について」を議題といたします。

質疑を許します。8番。

○8番（武田悦子） 介護保険条例の中で、3年から5年までの3か年の条例ということで、介護保険料の改定も出ております。この平均の5階層の部分で、7万2,000円、年間。月当たり500円ずつ上がるということですが、この介護保険料の上がる要因、介護保険の事業計画はまだできていませんので、事業の概要等々もまだ示されていない中で、どうして上がるのかという部分をお聞かせいただきたいというふうに思います。

○議長（菊地利勝） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（後藤 隆） 8番議員さんにお答えいたします。

今、議員さんご指摘のとおり、3年に一度の見直しで今計画の策定をしてございます。この計画の作成に当たりましては、国が定めている「見える化」システムという全国共通のシステムを使っておりまして、そちらにある程度の数値的な情報を入力することになってございます。そちらを入力して分析した結果、大玉村ですとこのようなある程度の金額で算出されてございます。

こちらの、ご指摘の7万2,000円、6万6,000円から平均のところ5階層で上がるというところですが、こちらにつきましても、当初の計画ではかなりの高い金額でございましたが、今コロナ等の状況もございますので、基金等を投入しまして金額のほうを下げるといような方策を取ってございます。それでもこの金額ということでご理解いただければと思います。

以上です。

○議長（菊地利勝） 8番。

○8番（武田悦子） よく分からないんですが、見える化システムというものには何を入力するんですか。どこの数字を入力するのか。

○議長（菊地利勝） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（後藤 隆） 再度、8番議員さんにお答えいたします。

先ほど申し上げました、今改定している計画にある数字ということですが、例えばでございますが、大玉村の高齢者の数並びに介護認定者の人数、さらには各種サービスの利用状況でございます。

こういった過去の数字を入力しまして、そちらを基に将来の推計をそのシステムでするような形になってございます。ということで、大玉村の現状の伸びを反映して金額のほうが増加するというふうな形を推計しております。

以上です。

○議長（菊地利勝） 村長。

○村長（押山利一） 8番議員さんに補足でお答えを申し上げたいと思います。

これ、介護保険料は利用の度合いによって各市町村ごとに算定するというふうになっておりますので、これは国の制度ということで、連合会がありまして、現時点で決めなければいけないということですので、本宮市が5,900円、二本松が

6, 200円という情報を受けております。これも3月議会に上程する予定ということですが。

大玉村は、今課長言いましたように、今までの数字を入れていきますので、これからの数字は当然入りませんが、現時点での分かり得る数字を入れて、過去3年間。そして、これから3年間、大玉村が介護保険料、個人から頂く平均金額という、計算上は6,400円になります。それを、今、5,500円から6,400円に900円引き上げると。これは現実なんです。利用者が多いと、利用率が高いということになると、当然上がります。

ただ、900円も一気に上げるというのはやはり影響が大きいということで、6,000円にとどめたというのが現状でございます。これから3年間、その6,000円でいきますので、赤字になる可能性があります。その場合は連合会からお借りして賄うと。

ですから3年後にどうするかということも現実にはあるんです。基金が大玉村の場合にはかなり無理して、無理してと言うとあれですけども、政策的にあまり急激に上げないようにと。近隣市町村と足並みをそろえてきたという経過がありますので、基金の額が少ないんですね。ですから3年後にその基金を使って押さえるということがちょっと難しいので、一般財源を投入しようとしても、制度上できないということですが、何らかの方法で一般財源を投入できないかということは今一生懸命探っている状況ですので、取りあえずは3年間この数字でお願いしたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（菊地利勝） 8番。

○8番（武田悦子） もう一つ、じゃお伺いしますが、この計画、今後3年間の計画の中で、新たなサービスの展開というものの計画は入っているのかどうか。

○議長（菊地利勝） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（後藤 隆） 8番議員さんにお答えいたします。

こちらの介護保険制度の運用に当たりましては、国の認定しているサービスのほうになってございます。ということで、国が認めている、例えば居宅サービス、地域密着型サービス等ございまして、現時点で大玉で利用されている方が少ないというふうなところでも、地域にそういったサービスを提供できる事業所等、資源がございましたらそちらを活用するという形はできますが、新たな事業ということでは、単独の事業はできますが、給付費に該当するようなものについては新たなものは今予定してはないものと認識しております。

以上です。

○議長（菊地利勝） ほかにございせんか。

（「質疑なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 質疑がないようですので、質疑を打ち切りたいと思います。

質疑を打ち切るにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 異議なしと認めます。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 異議なしと認めます。

よって、これより議案第11号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

ここで昼食のため暫時休議いたします。再開は午後1時30分といたします。

(午前11時58分)

◇

◇

◇

○議長(菊地利勝) 再開いたします。

(午後1時30分)

◇

◇

◇

○議長(菊地利勝) 日程第13、議案第12号「大玉村指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。

質疑を許します。議案第12号です。11番。

○11番(押山義則) 13号って何ったもんだから。(不規則発言あり)承知いたしました。

この12号から15号まで同じような内容なんでございますが、この基本方針の中であえて利用者の人権の擁護とか虐待の防止というこの項目が改正後には載ってないんでありますが、これ、今載つけられた理由と、これ、村の条例としてこういうのを定める必要性はあったのかなということを改めて伺っておきたいんですが。

○議長(菊地利勝) 健康福祉課長。

○健康福祉課長(後藤 隆) 11番議員さんにお答えいたします。

まず、この条例についてですが、国のほうの基準がございまして、その中で、国の基準はあるんですが、細かい細部につきましては条例で定めることとされてございまして、この4本が全て同様になってございます。

初めのほうの質問で、なぜこの時期に虐待がということでございますが、こちらにつきましては、この基準の見直しについても介護保険の3年間というところの3年に一度と同じような形で、国のほうでは社会保障審議会介護給付費分科会等の審議を踏まえて、3年に一度定期的な介護保険制度の見直しを実施ということで、この中で文言が整理されて、虐待等が追加されたものでございます。

それに基づいて、各条例に、この本条例にでもこういった基準を盛り込むこととな

ってございまして、今回新たに追加するものでございます。

以上です。

○議長（菊地利勝） ほかにございませんか。

（「質疑なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 質疑がないようですので、質疑を打ち切りたいと思います。

質疑を打ち切るにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、これより議案第12号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長（菊地利勝） 日程第14、議案第13号「大玉村指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。

質疑を許します。質疑ございませんか。

（「質疑なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 質疑がないようですので、質疑を打ち切ります。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、これより議案第13号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長（菊地利勝） 日程第15、議案第14号「大玉村指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。

質疑を許します。質疑ございませんか。

(「質疑なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 質疑がないようですので、質疑を打ち切ります。
お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 異議なしと認めます。

よって、これより議案第14号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長(菊地利勝) 日程第16、議案第15号「大玉村指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。

質疑を許します。質疑ございませんか。

(「質疑なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 質疑がないようですので、質疑を打ち切ります。
お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 異議なしと認めます。

よって、これより議案第15号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(菊地利勝) 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長(菊地利勝) 日程第17、議案第16号「大玉村鳥獣被害対策実施隊設置条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。

質疑を許します。11番。

○11番(押山義則) この定数のことなんでありますが、定数40人とされた根拠は、なぜ40人なのかということですが、これ、定数を定める必要があるんでしょうか。この辺、改めて伺います。

○議長(菊地利勝) 産業建設部長。

○産業建設部長兼農業委員会事務局長(菅野昭裕) 11番議員さんにお答えをいたします。

まず、鳥獣被害対策実施隊につきましては、条例において定数を定めてございます。

今般、条例改正をお願いするものでありますが、実施隊、基本的には猟友会の分会に所属されている方のうちから任命するという事としてございますが、今年度、わな猟の狩猟免許、こちらを取得された方がこのたびの猟友会に加入されるというふうな状況でございます。

現在、猟友会、実施隊の人数は12名であります、この加入によって猟友会の人数が24名となる見込みとなっておりますので、20人を超えることから、条例定数の改正が必要となりました。

もう1点は、できるだけ今後も含めて多くの実施隊の人数を確保してイノシシを中心とした有害鳥獣の対策に力を入れてまいりたいということから、40人というふうな定数の設定をさせていただいたところでございます。

それからあと、条例で実施隊の定数を定める必要でございますけれども、これは、実施隊は特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例、先ほど可決をいただきましたが、地方公務員法に規定する特別職の職員で非常勤のものということでございますので、条例で定数を定めるということでございます。

以上でございます。

○議長（菊地利勝） 11番。

○11番（押山義則） その定数の条例の必要性は分かりました。

ただ、その定数が40人と限定されることが、今、村としては鳥獣被害防止のために広く結局募集している段階で、今現在24人と伺っていますが、定数の枠は本当に村として必要なものの数、村の実情に合った数というのを検証する必要があるのかなと考えますが、その辺の検討はなされたでしょうか。

○議長（菊地利勝） 産業建設部長。

○産業建設部長兼農業委員会事務局長（菅野昭裕） 11番議員さんにお答えをいたします。

40名という定数でございますけれども、先ほど申し上げました猟友会の現時点での人数、それから今後見込まれるというものでございますけれども、当面の人数としての設定ということで、当然これ以上、40人を超える方々が実施隊としてなっていたらというふうな見込みが立てば、当然また条例の改正という形で、その段階で判断をし、お願いをするということになります。

また、これに関しましては、国・県への報告あるいはその登録の無償化というものもございまして、当面の数字ということで40というふうな数字を設定させていただいたというふうな内容でございます。

以上でございます。

○議長（菊地利勝） ほかにございませんか。

（「質疑なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 質疑がないようですので、質疑を打ち切りたいと思います。

質疑を打ち切るにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、これより議案第16号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

◇

◇

○議長（菊地利勝） 日程第18、議案第17号「大玉村消防団設置等に関する条例の一部を改正する条例について」を議題といたします。

質疑を許します。11番。

○11番（押山義則） この改正の中で、消防団の手当3,000円となっています。これ、広域管内の事情を掌握しておられましたら、説明願いたいんであります。

○議長（菊地利勝） 住民福祉部長。

○住民福祉部長（中沢武志） 11番議員さんにお答えいたします。

消防団、県の消防協会本宮支部という形で、本宮と支部を組んでございます。本宮のほうの状況といいますか、条例上の手当等の状況は把握してございます。

手当額、消防事務、それから火災発生、それから災害関係では1,100円、それ以外の災害対策本部、水防関係の応急対策の場合等及び応援協定に基づく要請に出動した場合、こちらは3,500円ということで承知をしております。

○議長（菊地利勝） ほかにございませんか。

（「質疑なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 質疑がないようですので、質疑を打ち切りたいと思います。

質疑を打ち切るにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、これより議案第17号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇ ◇ ◇
○議長（菊地利勝） 日程第19、議案第18号「大玉村総合福祉センターさくらにおける指定管理者の指定について」を議題といたします。

質疑を許します。質疑ございませんか。

（「質疑なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 質疑がないようですので、質疑を打ち切ります。
お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、これより議案第18号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇ ◇ ◇
○議長（菊地利勝） 日程第20、議案第19号「大玉村産業振興センター及び大玉村ふれあい広場における指定管理者の指定について」を議題といたします。

質疑を許します。ございませんか。

（「質疑なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 質疑がないようですので、質疑を打ち切ります。
お諮りいたします。

本案について討論を省略し、採決するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、これより議案第19号を採決いたします。

本案を原案のとおり決定するにご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○議長（菊地利勝） 異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇ ◇ ◇
○議長（菊地利勝） 以上で、日程による議事が終了しましたので、本日の会議を閉じ、散会いたします。

ご苦労さまでした。

（午後1時46分）